

1. Shabaan小学校の給水改善(ウガンダ)

- 実施団体: Centre for Women and Youth Empowerment(CEWAYE)
- 実施地: ウガンダ Isingiro県 Nakivale refugee settlement
- プロジェクト費用: 1,933ドル(JWFファンド1,300ドル、寄付金133ドル、団体400ドル、受益者100ドル)
- 受益者数: 1,141人(男93人、女146人、子ども902人)
- 実施地の水問題:

Nakivale難民居住地のNew Congo共同体では、難民キャンプ・ホストコミュニティの住民と学校の生徒が同じため池を水源としている。Shabaan小学校(Shabaan Social Progressive Initiative Primary School(SSPI))はこの地域唯一の学校だが、ため池から4Km離れた所にある。生徒たちは毎日、2・3時間かけて水汲みに行く。これによって、特に女子の学業時間や道中安全の確保が求められている。校内に安全な飲料水へのアクセスはなく、衛生環境は劣悪で、生徒や地域住民には水系感染症が頻発している。

【実施前】



SSPI小学校外観



ため池まで4Km歩く生徒たち



ため池から水を汲む生徒たち

- 主な活動内容: 雨水貯留システムの設置、足踏み式手洗い器2台の設置、1200人への持続可能な水利用研修と地域共同体住民によるチームへの雨水貯留システム維持管理と補修の習得訓練等。
- 特長: 参加型モニタリングと評価手法を導入して学校側と住民のオーナーシップを促し、目的達成と持続性に従事させる。
- 団体: 2017年設立、主婦の話し合いから貧困脱出をめざす団体として発展した。西ウガンダ地域に密着して、村落雨水貯留、太陽光発電による学校給水、植林事業等の実績あり。

I. Shabaan小学校の給水改善(ウガンダ)

【実施中】



貯水槽搬入



バナー掲示



Mr. Baanitse Jeannotさん(38歳)

校長として私たちの学校に雨水貯留システムを提供してくれたパートナーに感謝したいです。難民の困難な状況でも、すべての子どもが教育を受けられるよう頑張ることができます。水不足の解決だけでなく、生徒の健康、幸福、学業成績が変革しました。この成功は、私たちがすべての生徒の総合的な成長を育む学習環境を提供する取り組みへの証となるでしょう。



手洗い器給水



集合写真



Mr. Kangume Eliasさん(77歳)

このプロジェクトは、住民の間に結束と連帯感を育みました。私たちは一堂に集まり、その実施を支援し、参加しました。子供たちの健康、幸福、教育機会に与えた肯定的な影響を目指して、私たちはナキヴァレすべての住民の生活の質を向上させるための同様な活動を推進する決意を強めることができました。

【実施後】



引渡記念給水



手洗い器使用状況



Ms. Hotuya Julianさん(10歳)

遠くて安全でないため池へ水汲みに行かなくてよくなったので、勉強に集中して、自分の好きなことをやって、明るい未来を夢見て、母を幸せにすることができるようになりました。清潔な水へのアクセスがあると、自信を持って自分のゴールを達成できると感じられます。